



## 『子どもの権利』を知っていますか？

人が健康に生活する権利(生存権)やお金や土地などの財産を持つ権利、結婚する権利などが日本の憲法により保障されているように子どもたちにも権利が保障されています。1994年に日本は「子どもの権利条約」に批准(同意)しました。大きく分けて4つの権利を守ることを定めています。

この4つの権利を知っていましたか？

### 子どもたちが生まれながらにもつ4つの権利

- 生きる権利—人間らしく健康に生活できる
- 育つ権利—こどもがもつ力をのばし、休んだり、遊んだり、楽しんだりできる
- 守られる権利—暴力や病気から守られる
- 参加する権利—自分の意見をいえ、自由に表現でき、みんなで集まったり、会に参加できる

先日、ホームで月1回ある「本気で食べて語ろう会」で若者たちに「子どもの権利条約」について聞きました。ほとんどの若者たちが知りませんでした。4つの権利について説明し、「その権利が守られていないと思うことはある？」との質問に以下のように答えてくれました。

- ・大人から暴力を受けた
- ・大人から「クズ」などの暴言をゆわれた
- ・病院に行かせてもらえなかった
- ・障がいをもっているからといって差別された
- ・友だちにけられた
- ・家から外にだしてもらえなかった
- ・学校へいけなかった
- ・服をまったく買ってもらえなかった
- ・お金がなく食べ物がなかった
- ・「殴るぞ」とおどされた
- ・こどもやから文句ゆうなといわれた など

2019年の調査(セーフザチルドレンによる)では、約4割の大人が「聞いたことがない」、4割が「名前だけ聞いた」と答えました。日本の大人の8割が子どもの権利について知らないのが現実の日本です。こどもは約7割が自分の権利を知りませんでした。

日本ではまだまだ「こどもはおとなのいうことを聞いていれればいい」「こどもは未成熟なんだから当然だ」という考え方が根強く、こどもたちは黙って従っていることが多いのが現実だと思います。

(裏につづく)

### 新入居者紹介

Rくん

- 好きな食べ物・さばのみそ煮
- 好きなこと・自分が苦痛でなかったらなんでも好き
- 特技・人の気持ちをくみとること
- 自分はどんなタイプか・優柔不断
- ホームでの野望・今までできなかったことをしたい
- 苦手なこと・単調な作業
- 高校生活、がんばっています！部活をして、アルバイトをして、とっっても充実したホーム生活を過ごしています！



### ホームの風景③

#### 「キッチン」

スタッフが夕食を作ったり、入居者の若者たちが自分でラーメン



などを作って食べたりしています。若者たちは帰ってくると「今日は何？」と夕食のメニューを聞きます。一般的な家庭と同じです。スタッフやパートさんによって得意料理が違ったりするので味の違いにも若者たちは敏感です。キッチンの向こう側がリビング、玄関なので誰かと話しながら料理もできます。ごく普通のキッチンです。

子どもの権利条約に大きな影響を与えた、ポーランドのヤヌシュ・コルチャック先生は

「**子どもはだんだんと人間になるのではない。すでに人間である**」という言葉を残しています。

私たちは、ひとりの人間として「子ども」を扱っているでしょうか？尊重しているでしょうか？

私は若者たちや子どもたちの言葉をもっと聞かなければと思います。大人たちの行動が問われています。



「本気で食べて語ろう会」の後、若者たちに「大人に要望すること」「してほしいこと」を聞いてみました。

Sくん 子どもにどうするって権利やけど、大人が知ってほしい。義務教育とかでもっと教えるべき。大人が子どもの育て方や権利を勉強してほしい。

Hくん もうちょっと子どもの意見をきいてくれ。僕のことを信じて話を聞いてほしい。子どもの意見を聞いても結局大人の解釈で結論をだす。子どもの意見を聞いて、思いやることをしてほしい。幼児の話を書くとき大人がひざをおって聞くみたいに。

Hくん もうちょっと子どもを信用してほしい。

## 「子どもの権利の父」



ヤヌシュ・コルチャック

(1878年—1942年)

ポーランドの小児科医、児童文学作家、教育者、ホロコースト犠牲者。ユダヤ系ポーランド人。1911年からユダヤ人孤児のための孤児院「ドム・シエロト」の院長となる。著作と実践の両面から児童教育に力を注ぎ、子どもの権利という概念の先駆者となった。



子どもの里は、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」の賛同団体です。

若者についての相談など  
ご連絡ください！！  
こどもの里自立援助ホーム  
TEL 06-7508-1238  
もしくは 06-6645-7778

## ボランティアスタッフ紹介

2021年春からホームの夕食作りを担当している井上洋子です。それまでは宗教学務局の総務職を25年間務め、そして定年を迎え今があります。嘱託の仕事を通り、全く違う職種の「食事作り」に就く事には不安もありましたが、西成のこの地区でいつかは働きたいと思っていたので「こどもの里」の施設長からこの仕事に声をかけて下さった事は幸いでした。私は食べることも作ることも好きです。献立で悩むこともあります。これも楽しみです。

趣味はテニスとフランスシターと言う楽器を演奏することです。いつか皆さんとテニスをしたりまたシターの音色を奏でる機会がありますように。これからもどうぞ宜しくお願いします。



## 編集後記(ホーム長のぼやき)

「便利なものと成長させるもの」

よく若者たちがすぐに「ひまや」という。なのでだいたいみんな携帯をさわっている。確かに携帯は暇つぶしにもってこいの機械だ。次々と流れる映像を見続けたり、毎日のミッションをクリアするゲームとか受動的な行動であったりすることが多い。ふと思いついたのだが、『自分をほっといてみる』とどうなるのか。自分のやりたいことはなにか。「暇な時間」に自分のやりたいこと、好きなこと、自分がみつかるとはならないか。それが生きる力になるのではと想像する。私は若い頃に大きなバックパックを背負って目的のない“ひまな”旅にでた記憶があります。その時の記憶は濃く自分の中に残っています。遠くに見える雪山とか。ひまなときに何をしようかなあ。